

遠藤周作学会 会報

第 16 号

2021 年 10 月 31 日

発行 遠藤周作学会

代表 山根道公

二〇二一年度遠藤周作学会・全国大会
総会報告
事務局より

◇第十五回二〇二一年度遠藤周作学会・全国大会開催

第十五回二〇二一年度遠藤周作学会・全国大会は、二〇二一年九月十一日（土）に、オンライン（Zoom ミーティング）にて開催された。

役員会が十時から行われた後、十三時から遠藤周作学会代表、川島秀一氏による開会の辞が述べられた。次に、総会が行われ、以下プログラムのとおり三本の研究発表が行われた。続いて、遠藤周作学会代表の川島秀一氏にご講演いただいた。大会進行役は九州共立大学の古浦修子氏及び、九州産業大学の池田静香が担当した。

プログラム

【研究発表】

① 『海と毒薬』における救済の道

ジョージタウン大学学生 Harry He
司会 関西学院大学名誉教授 細川 正義

② 遠藤周作にみる啓示神学

——自らを「働き」として頭わにする神——

清泉女学院大学 古橋 昌尚
司会 遠藤周作学会役員 兼子 盾夫
③ 創作としての「翻案」…遠藤周作の場合

南山大学 金 承哲

司会 星美学園短期大学 武田 秀美
【講演】

残された余白―新たな出発に向けて―

遠藤周作学会代表 川島 秀一

◇ 総会

総会は、オンライン開催のため議長を選出せず、事務局長の笛木美佳氏が報告・計画の説明を行うことをもって、開かれた。まず、二〇二〇年度事業報告がなされた。内容は次のとおり。

◆『遠藤周作事典』を二〇二一年四月十五日、鼎書房より刊行した。六〇〇部印刷し、売れ行きは順調。修正が必要な場合は事務局へ。

◆機関誌『遠藤周作研究』第十四号発行。

◆第十四号は『遠藤周作事典』刊行記念とした論稿一篇と特別寄稿一篇、五篇の論稿、一篇の書評、北田雄一氏による研究展望を収録。

◆会員数は、二〇二一年九月時点で一〇二名。

◆太原正裕氏により監査報告がなされ、二〇二〇年度の会計報告が承認された。

◆続いて、事務局より二〇二一年度事業計画が示された。内容は次のとおり。

◆役員体制について、川島代表の代表退任に伴い、代表に山根道公氏、副代表に笛木美佳氏、事務局長に古浦修子氏が推薦され、承認された。

◆学会の国際的な広がりを考慮し、新たに特別顧問にヴァン・ゲッセル氏が推薦され、承認された。また、新役員として増田斎氏と長谷川（間瀬）恵美氏が推薦され、承認された。

◆第十六回二〇二二年度遠藤周作学会・全国大会を南山大学にて開催。

◆機関誌『遠藤周作研究』次号（第十五号）は、今回の発表者の原稿を掲載予定。募集要項等はこれまで通り。

最後に遠藤周作学会副代表の山根道公氏の閉会の辞をもって全国大会の日程を終了した。

◇ 特別寄稿——代表交代のご挨拶

二〇二一年度の役員改選において、代表の交代がなされた。退任・就任にあたり、新旧代表からご寄稿いただいた。

【退任挨拶】

未来を見つめて

川島 秀一

先ずは皆さんに感謝の念をささげねばなりません。前会長であった笠井秋生先生の任期最後の四年と、正式に代表としての五年をあわせて九年の間、先生方のお助けを頂きながら、滞りなく任を終えることができましたこと、本当に感謝です。その五年の間に、学会としては大きな出来事が二つ。一つは長崎での、国際芥川龍之介学会との合同大会。これは、長崎の方々に助けられ、本当に楽しいものでした。もう一つは言うまでもなく、結果として5年という時間を費やすことになった『遠藤周

作事典』の刊行という事業。正直少し辛かったけれども、一方ではわくわくする、研究者としての自らを奮い立たせる仕事でもありました。先生方の原稿を読むたびに、作品が一つ一つ鎖のようにつながっていく、あるいは遠藤文学全体が立体的なフレームの中に一つの形を成していく、そのような醍醐味を味わう仕事ともなりました。学会をこの時期山根先生に引き継ぐことができ、何よりも一安心しています。

【就任挨拶】

代表を引き継いで

山根 道公

この大会で川島秀一代表が健康上の理由もありでご退任されることとなり、私が代表を引き継ぐことになりました。思えば、遠藤周作没後一〇年の二〇〇六年九月に遠藤周作研究会を立ち上げ、第一回大会を岡山のノートルダム清心女子大学で開いて以来十五年、笠井秋生代表、川島代表のもとで学会は発展しました。その間、私は事務局長、副代表でしたが、二〇〇九年に研究会から学会に格上げた時に笠井代表が、学会員の力で遠藤周作事典を作ろうとヴィジョンを掲げ、その翌年に体調を崩された笠井先生の意向を、川島先生が副代表、代表となって引き継がれ、今回、その悲願であった学会員の

力の結集した事典が刊行できたことは何よりの喜びで、その完成のために全身全霊を傾けて下さった川島先生にはいくら感謝してもしきれません。また、若い研究者が育っていく場となることを願って発足した学会でもありました。今は遠藤研究で業績を積み上げた先生方が各世代で活躍しておられ、私自身は微力ながら、そうした先生方の力をお借りして共に今後の学会の運営を担うことのできるのは大変ありがたく、頼もしい限りです。二〇二三年三月二十七日に迎える遠藤周作生誕一〇〇年に向けて、遠藤周作という「高峰」をめざして次の高みへと登る学会の新たな展開が求められるなか、学会員お一人お一人のご活躍と共に、学会活動へのご支援、ご協力、何卒よろしくお願い申し上げます。

◇ 事務局より

▼第十五回遠藤周作学会・全国大会は、オンライン開催となりました。参加者は会員四十九名に、聴講者二名が加わり、大変盛会でした。オンライン開催のためにご尽力くださいました、大会運営委員、事前リハーサルにご協力くださいましたご発表・ご講演・司会の方々に、改めて御礼申し上げます。

▼今回の大会の研究発表は、三名の発表者が遠藤作品を作品論・神学・創作技法から論じ、新たな視点や解釈を提示する刺激的な発表の場となりました。また、海外からの発表がなされたことも、オンライン大会の醍醐味となりました。充実した内容が機関誌にまとめられますことを楽しみにしています。

また、川島秀一氏による講演会では、『遠藤周作事典』編集責任として抱かれた感慨について、語っていただきました。事典に適した言葉と研究者の言葉の違いから生じる苦悩、遠藤周作研究の全体像から今後の展望まで、高い知見に基づくお話は、大会の締めくくりにふさわしい実りあるものでした。

▼機関誌「遠藤周作研究」第十五号の投稿論文を募集します。投稿申し込みは、十二月末までに事務局へお願いいたします。機関誌の最後にある投稿規定をご覧のうえ、会員の方々の意欲的な投稿が多く寄せられることをお待ちしております。

▼次回の研究発表の申込みは来年五月末日締切りです。三月に改めて募集のお知らせをいたします。――

▼次回の大会は、第十五回大会の開催校であった、金承哲氏が所属される愛知県の南山大学にて行われます。周

知のとおり、遠藤は戦国三部作執筆にあたって、犬山城や木曾川のある愛知県を足繁く訪れました。来年度は開催校である南山大学に多くの学会員が集い、充実した研究発表がなされ、盛会となりますことを期待します。

▼最後に学会員の方々にご協力のお願ひがあります。機関誌の「遠藤周作参考文献目録及び研究展望」は、次号より増田斎氏が担当されますので、遠藤周作に関する会員の方々の論文はもちろん、入手できた参考文献についての情報を、増田氏に直接お知らせください（E-mail: itsuki.masuda1117@gmail.com）。また、これまでの参考文献目録について遺漏のある場合も、ご連絡をお願いします。

（文責 会報担当 池田静香）

遠藤周作学会 事務局

T 807-85805

福岡県北九州市八幡西区自由ヶ丘1-8九州共立大学
共通教育センター 古浦修子研究室内

TEL: 093(693)3186

E-mail: soyomilk@titan.ocn.ne.jp